



学を土台とし、未来へ希望をつなげ

広島大学長 田中隆莊

新入生諸君、入学おめでとう。平成3年度学部学生、大学院学生の諸君を迎えることができたことは、広島大学の大きな喜びである。

諸君は、広島大学で学ぶことを志し、努力を重ねて、めでたく本学の第一学年生となった。いよいよ始まる大学生生活に、大きな希望に燃えていることと思う。いま、諸君の意気込をひしひしと感じ、頼もしく思う。

諸君の今にちのこの日を心待にして、諸君を支えられた御家族、教え導かれた先生方、励ましてくれた友人や周りの方々に、諸君とともに、ここで改めて礼を申し上げたい。

諸君は今日から、広島大学の学生である。その広島大学は、さきの太平洋戦争後の学制改革によって、旧制度の大学を含む、九つの高等教育機関を母体として創設され、その後の増設と改組を経て、現在、11学部と大学院を擁する、我が国最大の総合大学の一つである。

いま広島大学は、その活動を大きく前進させるために、広島市に隣接の学園都市東広島市に9学部を統合し、国立大学として初めての、自然に恵まれた、太陽と緑あふれるキャンパスライフを築きつつある。さらに、広島市に置く現キャンパスの医・歯系及び本学関係諸機関を、いっそう充実整備し、両キャンパス一体の研究と教育を展開しようとしている。諸君には、この広島大学に、志を立てて入学し、広大生として誇りと責任を担い、思う存分に学んで、研鑽を積み、期待と志に応えてほしい。

諸君の社会的状況と責務は、今日から大きく変化した。いま、大学に入学した意義をしっかりと考え、自覚せねばならない。諸君は、大学生として、物事の事実と本質を学び、知る方法と能力を習得する。また、事実と本質が体系化される過程と現状、及び未来への展望、解決すべき問題点等を学ぶ。また、種々の対立する学説と概念を、さらに、様々な価値観を学ぶ。この学を土台とし、大学生として自らの夢と理想を描き、未来へ希望をつないでもらいたい。大学生時代は理想と未来への懸け橋のときである。二度とないこの大学生時代が、諸君にとって夢多き日々であることを祈っている。

人間は誰も、これからますます、地球一体であることの自覚が重要となる。広島大学ではいま、諸君とともに学ぶ500名を越える外国人留学生が、それぞれ専門を学ぶことを志し、日夜勉学に励んでいる。異なる文化を持つ留学生諸君は、貴重な仲間である。諸君には、進んでともに語り合い、ともに研鑽して、世界から見る目を養ってもらいたい。

大学は、いろいろの意見や見解を持つ人を、また、価値観や将来の夢が違う人を、幅広く擁しているところである。柔軟で自由な見方や考え方に接し、率直に、素直に語り合い、心を開き合った学生生活を送ってもらいたい。人間は心が共鳴するとき、潜在能力が湧き出るものである。

広島大学の一日一日は、諸君にとってかけがえのない日々である。広大生として、毎日が充実した日になるよう、自らを進歩させて、実り多い大学生活になるよう、祈っている。

広島大学は、諸君をしっかりと受けとめ、諸君とともに前進しつづける。改めて入学おめでとう。諸君を心から歓迎する。